

# 2014年度第1四半期 決算説明会

2014年7月31日  
株式会社村田製作所

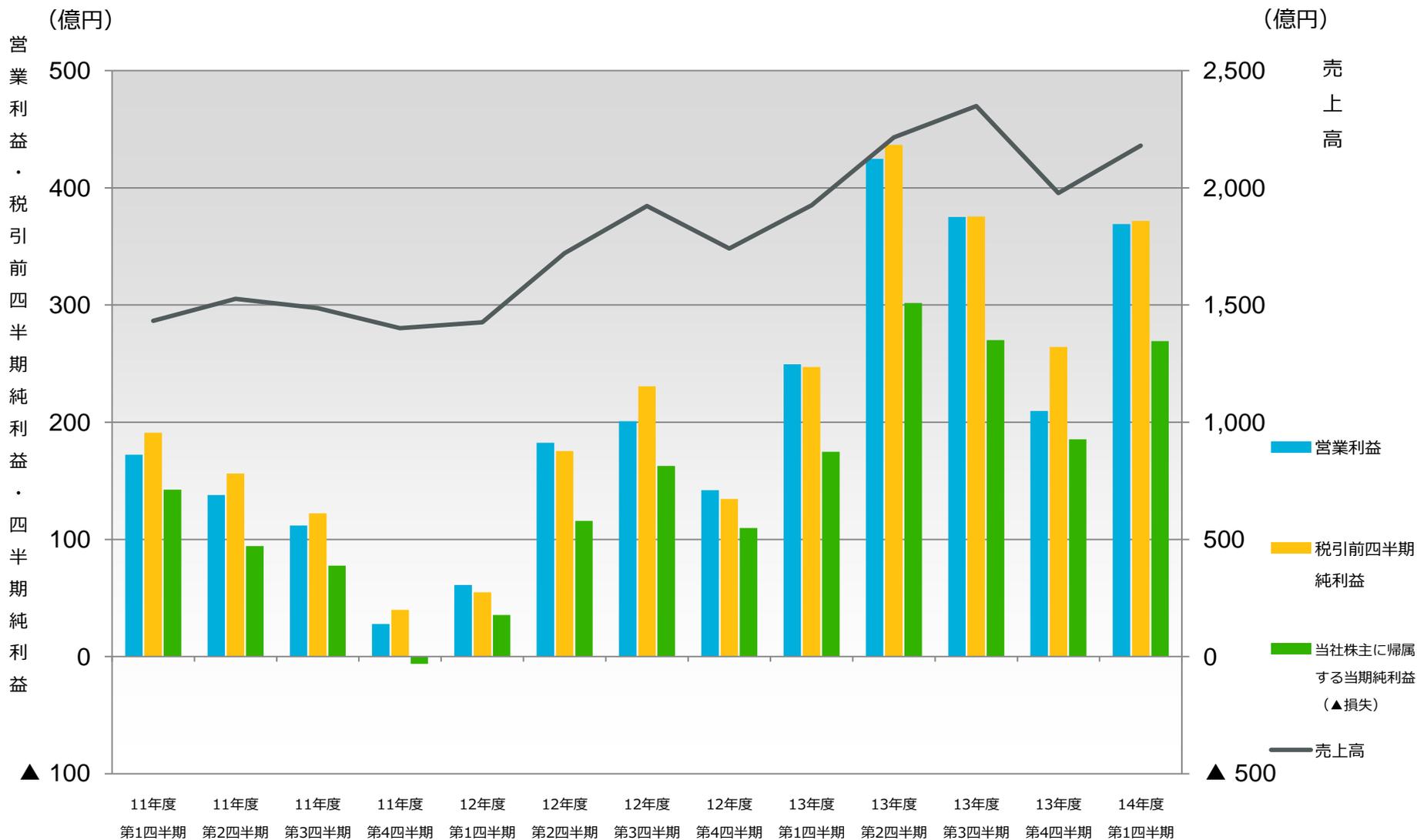


- 当第1四半期の売上高は中国の携帯電話市場向けなど、伸びる市場の需要を取り込み、計画に対して上回った
- 営業利益は前年同期比48%の増加。営業利益率は同比3.9ポイント上昇の16.9%  
上期の業績予想に対する進捗率は50%超
- 受注は堅調に推移し、注残高は1,000億円超と2001年度以降では最高水準  
第2四半期以降も堅調な業績を見込む

# 1. 2014年度 第1四半期業績概要

2014年4月～2014年6月  
第1四半期連結会計期間

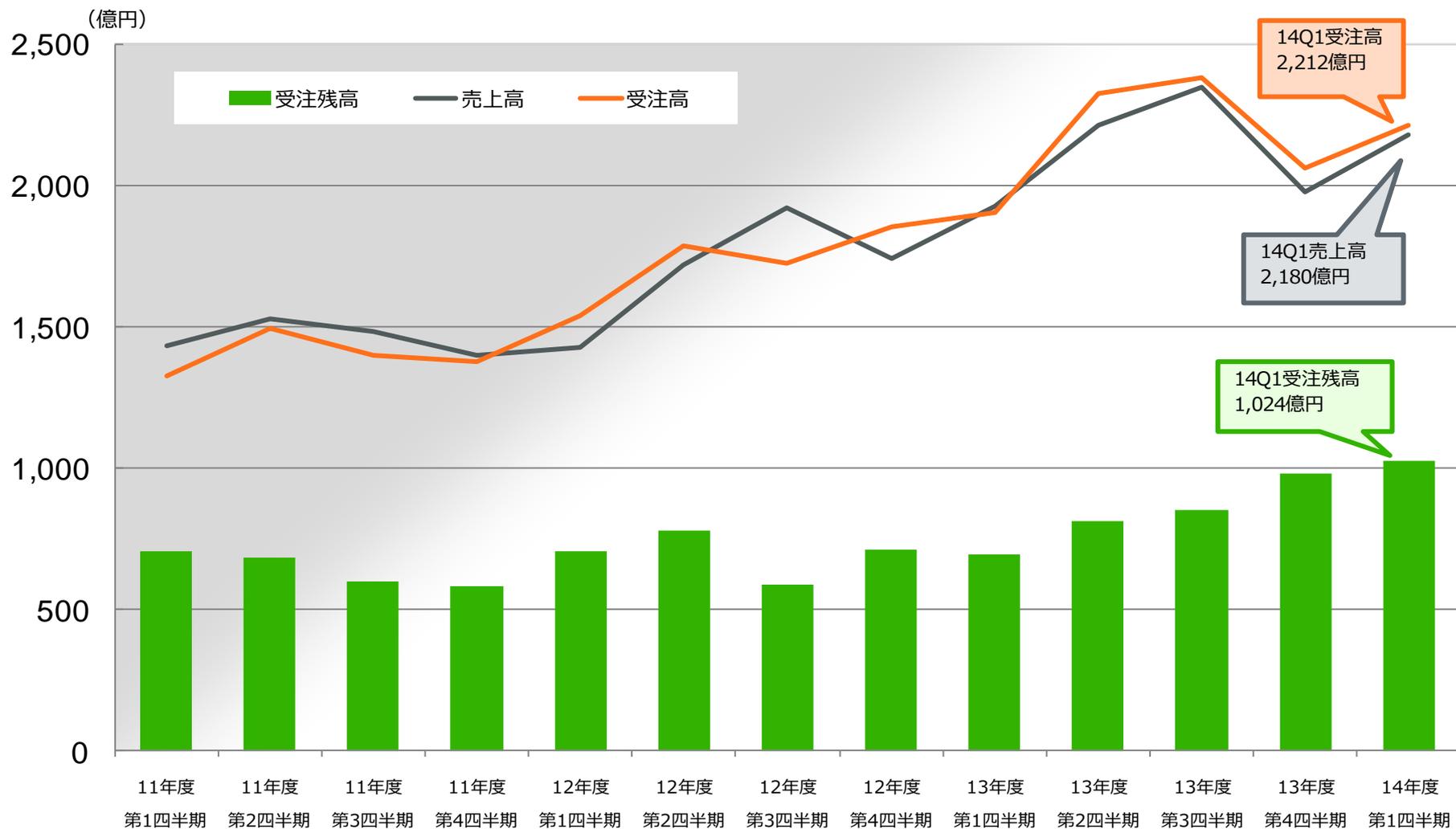
# 業績推移（四半期）



# 業績概況

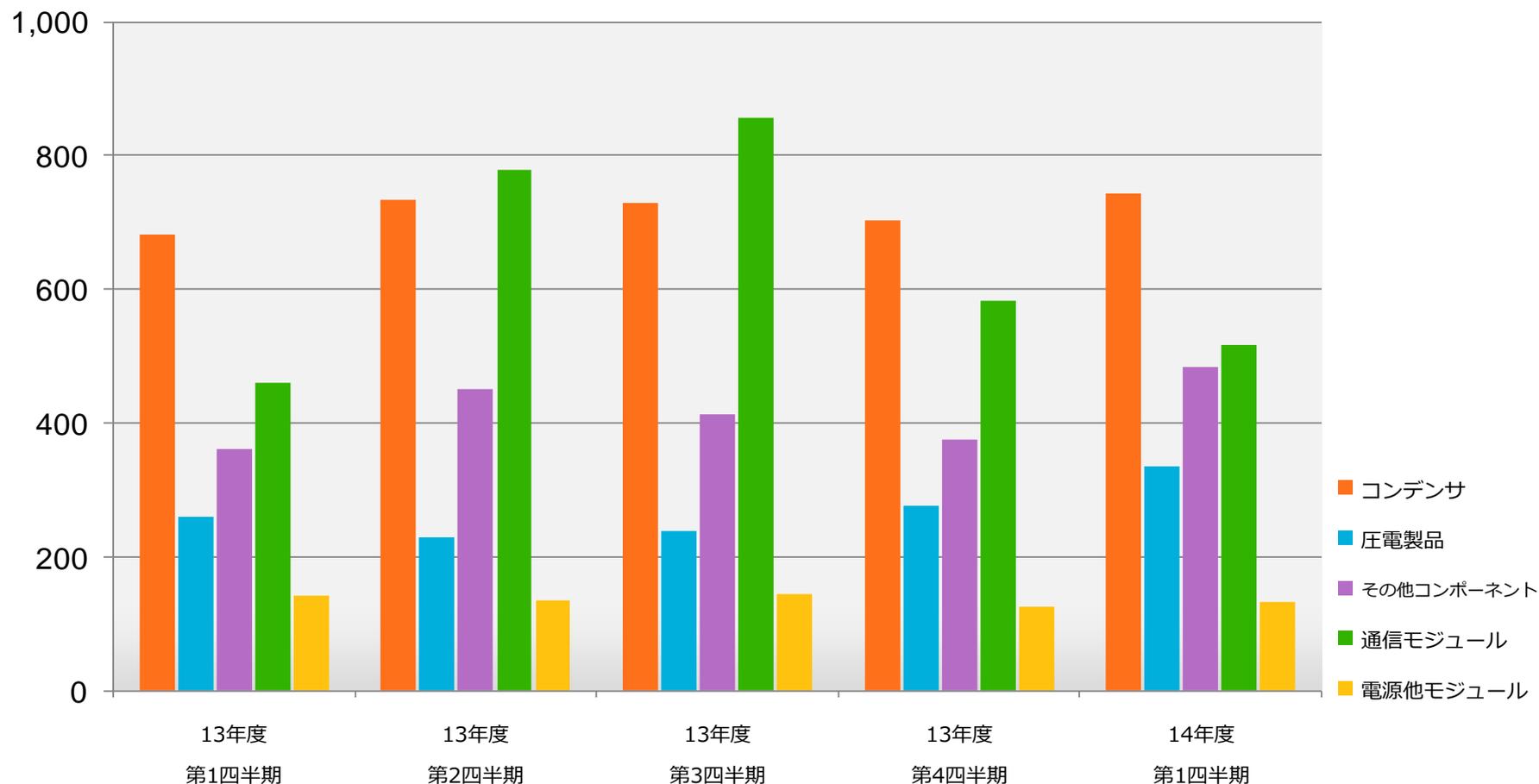
	2013年度 第1四半期		2013年度 第4四半期		2014年度 第1四半期		前年同期比 14Q1/13Q1		直近四半期比 14Q1/13Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	1,926	100.0	1,978	100.0	2,180	100.0	+254	+13.2	+202	+10.2
営業利益	249	13.0	210	10.6	369	16.9	+120	+47.9	+159	+76.0
税引前当期純利益	247	12.8	264	13.4	372	17.1	+125	+50.5	+107	+40.7
当社株主に帰属する 当期純利益	175	9.1	185	9.4	269	12.4	+94	+54.0	+84	+45.3

# 売上・受注・注残推移（四半期）



# 製品別受注高推移

(億円)



# 製品別売上高

	2013年度 第1四半期		2013年度 第4四半期		2014年度 第1四半期		前年同期比 14Q1/13Q1		直近四半期比 14Q1/13Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	661	34.5	640	32.5	698	32.1	+37	+5.5	+58	+9.0
圧電製品	242	12.6	242	12.3	286	13.2	+44	+18.0	+44	+18.0
その他コンポーネント	353	18.4	357	18.2	466	21.4	+113	+31.9	+109	+30.4
通信モジュール	520	27.1	605	30.8	585	26.9	+65	+12.4	▲21	▲3.4
電源他モジュール	143	7.4	123	6.2	138	6.4	▲5	▲3.6	+15	+12.1
製品売上高計	1,919	100.0	1,967	100.0	2,171	100.0	+252	+13.1	+204	+10.4

(注) 東光(株)の売上高は2014年度第1四半期より「その他コンポーネント」に含んでおります

# 製品別売上高概況

[2013年度第4四半期→2014年度第1四半期]

<p>コンデンサ (直近四半期比+9.0%)</p>	<p>○<b>チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC)</b> 小型品・大容量品が通信機器、カーエレクトロニクス向けに伸長</p>
<p>圧電商品 (直近四半期比+18.0%)</p>	<p>○<b>表面波フィルタ</b> 中国のスマートフォン需要の拡大およびLTE端末へのシフトにより大幅に増加</p> <p>○<b>発振子</b> セラミック発振子が家電向けに増加</p>
<p>その他コンポーネント (直近四半期比+30.4%)</p>	<p>○<b>コイル</b> 高周波チップコイルがスマートフォン向けで増加した他、連結子会社化した東光(株)のコイル関連製品が加わったことで大幅に伸長</p> <p>○<b>コネクタ</b> スマートフォン、タブレット端末向けで大幅に増加</p> <p>○<b>EMI除去フィルタ</b> 中国の携帯電話向けが伸長</p>
<p>通信モジュール (直近四半期比▲3.4%)</p>	<p>▲<b>近距離無線通信モジュール</b> 携帯メディアプレーヤー向けは増加したものの、スマートフォン向けで振るわず</p> <p>○<b>多層モジュール/多層デバイス</b> スマートフォン向けで増加</p>
<p>電源他モジュール (直近四半期比+12.1%)</p>	<p>○<b>電源</b> OA機器向けやカーエレクトロニクス(主にカーオーディオ)向けで大幅に増加</p>

# 用途別売上高

	2013年度 第1四半期		2013年度 第4四半期		2014年度 第1四半期		前年同期比 14Q1/13Q1		直近四半期比 14Q1/13Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
AV	109	5.7	89	4.5	116	5.4	+7	+6.4	+27	+30.6
通信	928	48.4	972	49.4	1,042	48.0	+115	+12.4	+70	+7.2
コンピュータ及び関連機器	352	18.3	351	17.9	391	18.0	+39	+11.2	+40	+11.3
カーエレクトロニクス	283	14.7	317	16.1	337	15.5	+54	+19.1	+20	+6.2
家電・その他	248	12.9	237	12.1	284	13.1	+37	+14.9	+47	+19.8
製品売上高計	1,919	100.0	1,967	100.0	2,171	100.0	+252	+13.1	+204	+10.4

(注) 当社推計値に基づいております

# 用途別売上高概況

[2013年度第4四半期→2014年度第1四半期]

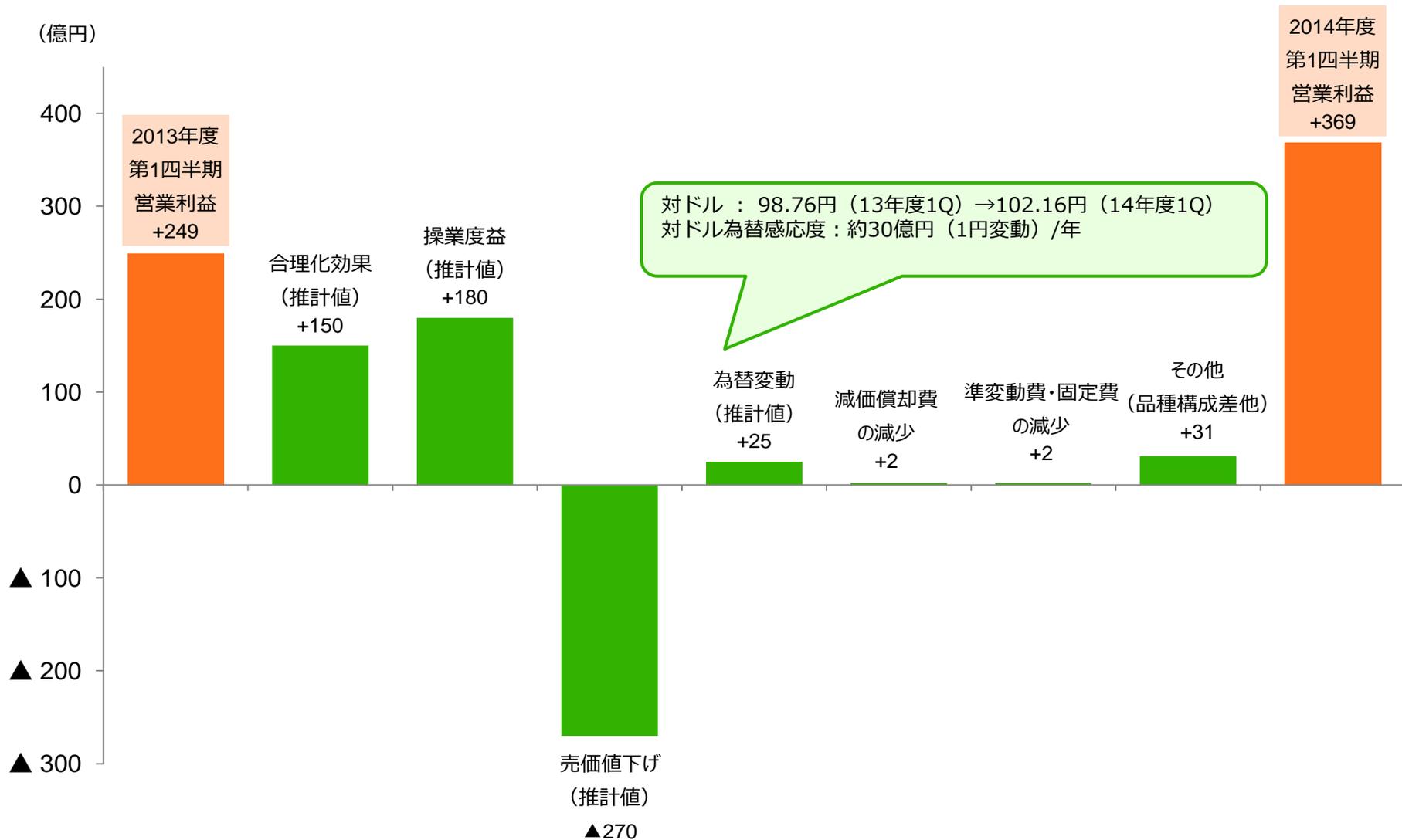
<p>AV (直近四半期比+30.6%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○携帯メディアプレーヤー向けで近距離無線通信モジュールが大きく伸長</li><li>○セットトップボックス向けにMLCCが大幅に増加</li></ul>
<p>通信 (直近四半期比+7.2%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>▲スマートフォン向けに 近距離無線通信モジュールが減少</li><li>○中国のLTE端末向けに表面波フィルタ、小型大容量MLCCが大きく増加</li></ul>
<p>コンピュータ及び関連機器 (直近四半期比+11.3%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○タブレット端末向けで近距離無線通信モジュール、コネクタ、MLCCなどが増加</li><li>○ノートPC/デスクトップPC向けでMLCC向けが増加</li><li>○HDD向けでショックセンサが堅調</li></ul>
<p>カーエレクトロニクス (直近四半期比+6.2%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○電装化の進展で車載用MLCCが増加</li><li>▲カーオーディオ向けで車載用近距離無線通信モジュールが低調</li></ul>

(注) 当社推計値に基づいております



# 利益変動要因

[2013年度第1四半期→2014年度第1四半期]



## 2. 2014年度 業績予想

(2014年4月～2015年3月)

# 2014年度 業績予想

	2013年度 実績		上期予想		下期予想		2014年度 通期予想		増減	
	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比	金額	伸率	金額	伸率
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	8,467	100.0	4,450	4,750	9,200	100.0	+733	+8.7		
営業利益	1,259	14.9	710	730	1,440	15.7	+181	+14.3		
税引前当期純利益	1,323	15.6	730	750	1,480	16.1	+157	+11.7		
当社株主に帰属する 当期純利益	932	11.0	510	510	1,020	11.1	+88	+9.5		

※ 4月公表値の見直しを行っておりません

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you

